

# 参考資料

## 体育活動における事故の傾向

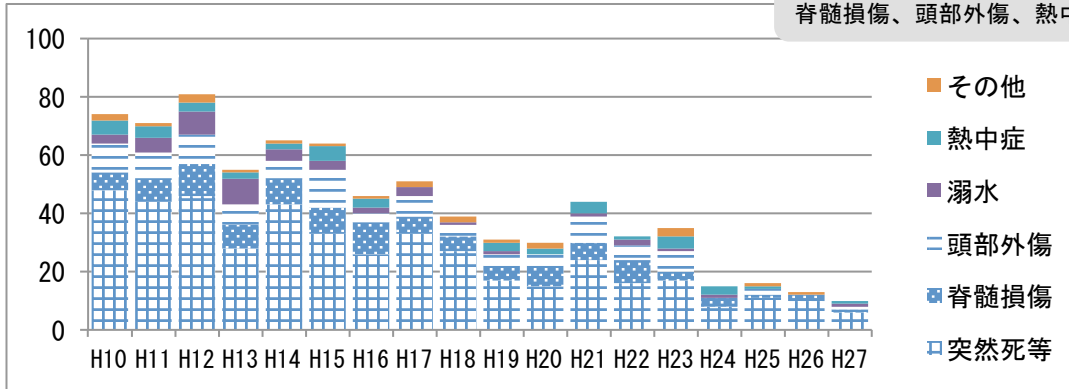
- 死亡・重障害事故の傾向
- 障害事故の傾向

# 死亡・重障害事故の傾向

学校の管理下で18年間（平成10年度～平成27年度）に発生した体育活動中（体育の授業、運動部活動、体育的行事等）における事故で、災害共済給付の死亡見舞金、障害見舞金のうち第1級～第3級を給付した事例773例（死亡587例、障害186例）を分析した。

## (1) 傷病別・年度別

事故は減少傾向にあるが依然起きており、突然死、脊髄損傷、頭部外傷、熱中症、溺水などが多い。

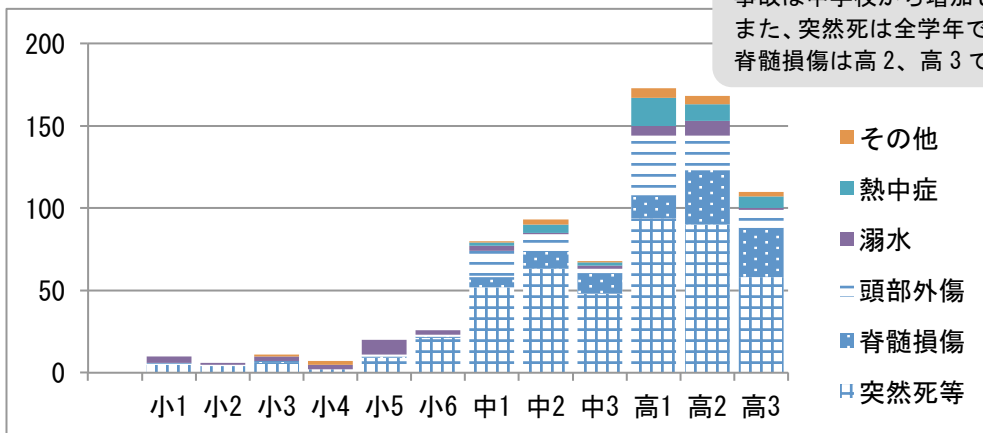


	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	合計
突然死等	48	44	46	28	43	33	26	33	27	17	15	24	16	17	8	11	11	6	453
脊髄損傷	6	8	11	8	9	9	11	7	5	5	7	6	8	3	3	1	2	1	110
頭部外傷	10	9	10	7	6	13	3	6	4	4	4	9	5	7	0	2	0	1	100
溺水	3	5	8	9	4	3	2	3	1	1	0	1	2	1	1	0	0	1	45
熱中症	5	4	3	2	2	5	3	0	0	3	2	4	1	4	3	1	0	1	43
その他	2	1	3	1	1	1	1	2	2	1	2	0	0	3	0	1	1	0	22
合計	74	71	81	55	65	64	46	51	39	31	30	44	32	35	15	16	14	10	773

※「その他」は「窒息（溺死以外）」「内臓損傷」等

## (2) 傷病別・学年別

事故は中学校から増加し、高等学校の1年で最も多い。また、突然死は全学年で起きており、約半数を占めている。脊髄損傷は高2、高3で、頭部外傷は高1で多い。



	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	合計
突然死等	5	4	6	2	9	21	53	63	48	94	90	58	453
脊髄損傷	0	0	1	0	1	1	6	12	12	14	33	30	110
頭部外傷	1	1	0	0	1	1	16	9	3	36	21	11	100
溺水	4	1	3	3	9	3	3	1	2	6	9	1	45
熱中症	0	0	0	0	0	0	2	5	2	17	10	7	43
その他	0	0	1	2	0	0	1	3	1	6	5	3	22
合計	10	6	11	7	20	26	81	93	68	173	168	110	773

### (3) 競技別・傷病別

	突然死等	脊髄損傷	頭部外傷	溺水	熱中症	その他	合計
陸上競技	134	2	4	0	3	3	146
水泳	24	27	0	33	0	1	85
柔道	10	19	41	0	7	3	80
バスケット	61	3	3	0	1	1	69
サッカー	46	3	3	3	4	2	61
野球	33	1	3	1	9	3	50
ラグビー	5	18	11	0	6	0	40
バレーボール	22	2	4	0	1	0	29
器械体操等	5	23	2	0	0	1	31
その他	113	12	29	8	12	8	182
合計	453	110	100	45	43	22	773

※競技の「その他」は、「スキー」「レスリング」「登山」「卓球」「ソフトテニス」等

「陸上競技」が最も多い理由としては、陸上競技部の活動だけでなく、運動会でのリレーや学校行事のマラソン大会等も含まれるためである。

### (4) 傷病別・原因別

	走る等	投げられる・打たれる等	泳ぐ	人と接触	プールへ飛び込み	技が不完全	転倒・転落	施設・設備等と衝突	ボール等と接触	その他	合計
突然死等	400	0	24	0	0	0	0	1	2	26	453
脊髄損傷	0	19	0	21	31	27	6	1	0	5	110
頭部外傷	0	55	0	16	0	2	12	8	5	2	100
溺水	0	0	35	0	0	0	2	0	0	8	45
熱中症	43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43
その他	1	3	1	0	0	2	4	1	1	9	22
合計	444	77	60	37	31	31	24	11	8	50	773

※「その他」は「準備運動中に倒れる」「休憩中に倒れる」等

事故は「突然死」では『走る等』『泳ぐ』、「脊髄損傷」では『プールへ飛び込み』『技が不完全』『人と接触』、「頭部外傷」では『投げられる等』『人と接触』が多いなど、傷病により原因に違いがある。

### (5) 競技別・原因別

	走る等	投げられる・打たれる等	泳ぐ	人と接触	プールへ飛び込み	技が不完全	転倒・転落	施設・設備等と衝突	ボール等と接触	その他	合計
陸上競技	135	0	0	2	0	2	1	1	0	5	146
水泳	0	0	56	0	27	0	1	0	0	1	85
柔道	15	60	0	0	0	3	0	0	0	2	80
バスケット	59	0	0	1	1	0	3	1	0	4	69
サッカー	47	0	1	2	1	0	1	2	0	7	61
野球	37	0	1	1	0	0	0	0	5	6	50
ラグビー	11	0	0	28	0	0	0	1	0	0	40
バレーボール	22	0	0	0	1	0	3	0	1	2	29
器械体操等	4	0	0	0	0	25	1	0	0	1	31
その他	114	17	2	3	1	1	14	6	2	22	182
合計	444	77	60	37	31	31	24	11	8	50	773

※ 競技の「その他」は、「スキー」「レスリング」「登山」「卓球」「ソフトテニス」等

「プールへの飛び込み」の内バスケット、サッカー等は、トレーニングの一環としてプールを利用した際の災害である。

(6) 発生場所別・傷病別

	突然死等	脊髄損傷	頭部外傷	溺水	熱中症	その他	合計
運動場	214	25	30	0	20	6	295
屋内運動場	141	50	63	0	13	10	277
プール	23	31	0	32	0	1	87
道路	57	1	2	0	7	2	69
学校外その他	9	3	3	13	3	3	34
学校内その他	9	0	2	0	0	0	11
合計	453	110	100	45	43	22	773

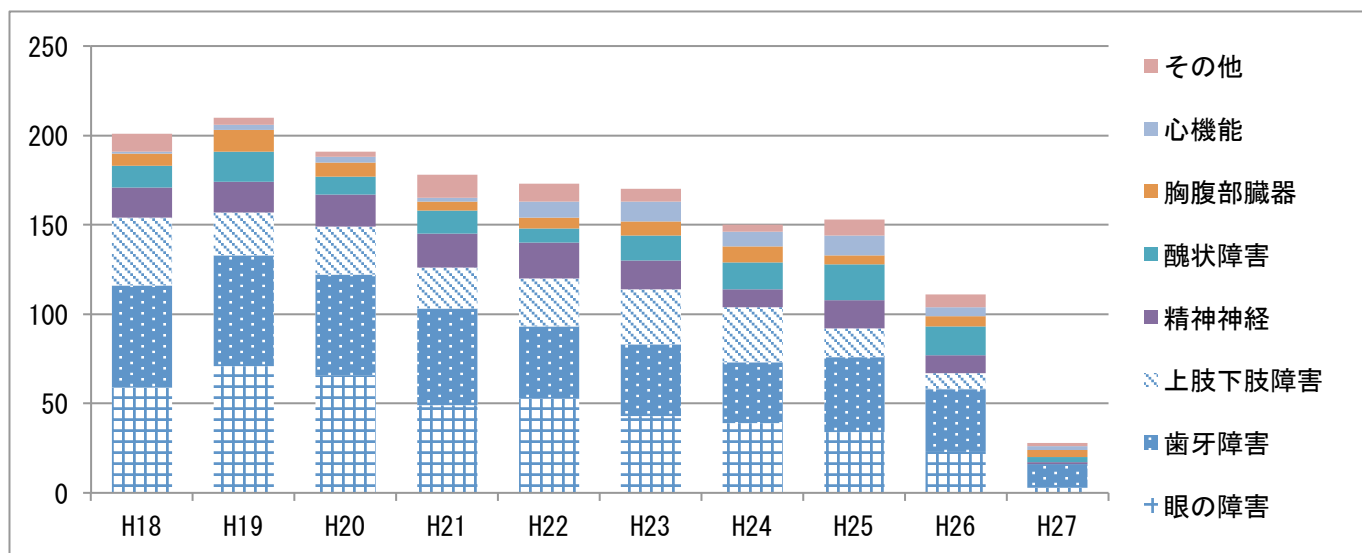
※「学校外その他」は「競技場」等。「学校内その他」は「教室」等。

運動場・屋内運動場での事故が、全体の約 3/4 を示している。

## 障害事故の傾向

学校の管理下で10年間（平成18年度～平成27年度）に発生した体育活動中（体育の授業、運動部活動、体育的行事等）における事故で、災害共済給付の障害見舞金（第1級～第14級）を給付した事例1564例を分析した。

### (1) 障害別・発生年度別推移

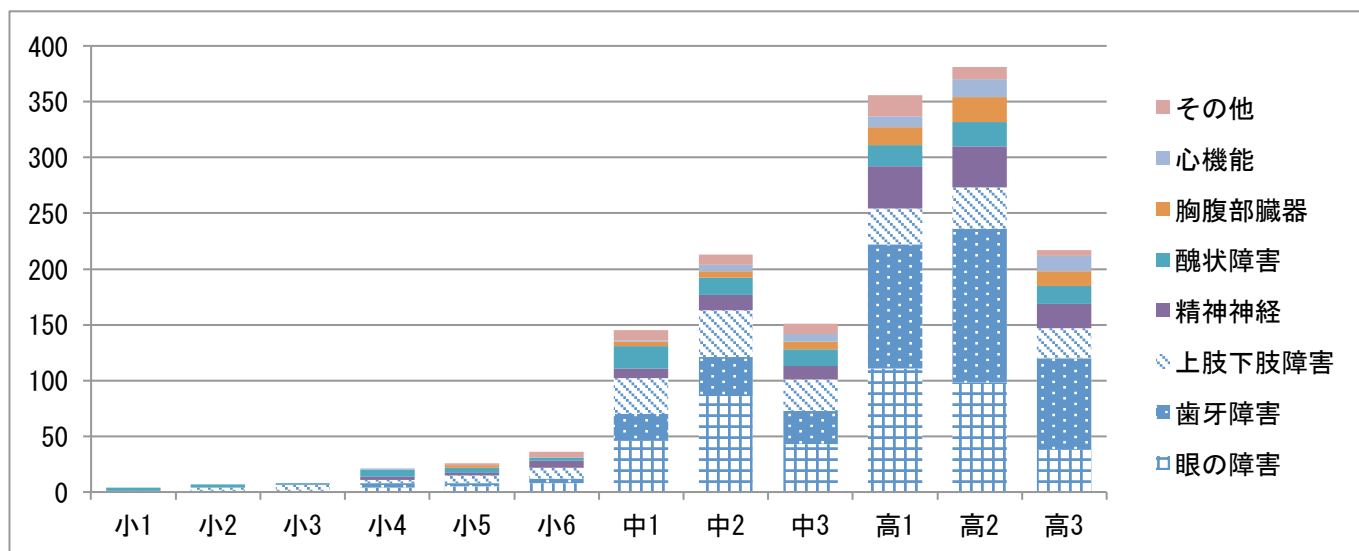


	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	合計
眼の障害	59	71	66	49	53	43	39	34	24	2	440
歯牙障害	57	62	56	54	40	40	34	42	35	13	433
上肢下肢障害	38	24	27	23	27	31	31	16	9	0	226
精神神経	17	17	18	19	20	16	10	16	9	1	143
醜状障害	12	17	10	13	8	14	15	20	16	3	128
胸腹部臓器	7	12	8	5	6	8	9	5	6	4	70
心機能	1	3	3	2	9	11	8	11	5	2	55
その他	10	4	3	13	10	7	4	9	7	2	69
合計	201	210	191	178	173	170	150	153	111	27	1564

※「その他」は「手足機能障害」「聴力障害」等

給付年度ではなく、発生年度に遡ってカウントしているため、近年は少ない傾向となる。

(2) 障害別・学年別

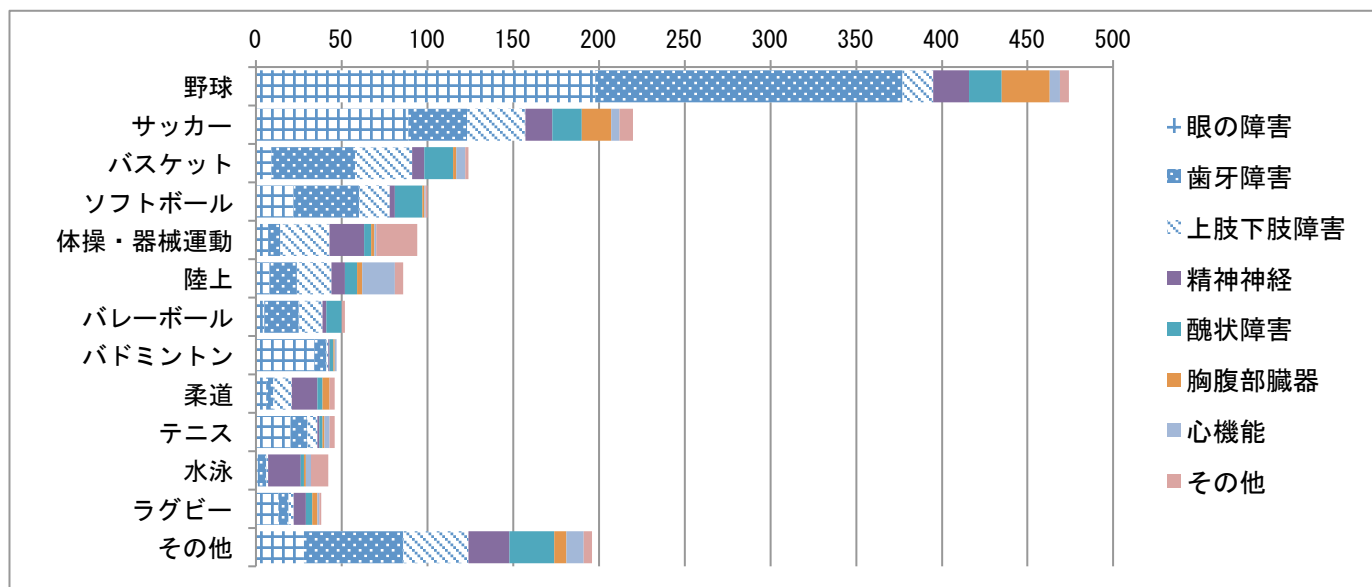


	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	合計
眼の障害	0	0	1	4	5	8	46	86	43	111	98	38	440
歯牙障害	1	1	0	4	3	4	24	35	30	110	139	82	433
上肢下肢障害	0	3	5	3	7	10	32	42	28	32	37	27	226
精神神経	0	0	1	3	2	6	9	14	12	38	37	21	143
醜状障害	3	3	1	6	5	3	20	15	15	19	22	16	128
胸腹部臓器	0	0	0	0	2	0	4	6	7	16	22	13	70
心機能	0	0	0	1	0	0	1	6	7	10	16	14	55
その他	0	0	0	0	2	5	9	9	9	19	11	5	69
合計	4	7	8	21	26	36	145	213	151	355	382	216	1564

中学校では「眼の障害」が多く、ボールやシャトルが当たった、道具・設備等にぶつかる、当たる等により発生している。  
高等学校では「歯牙障害」が多く、ボールが当たる、他者との接触等により発生している。

(3) 競技別・障害別

	眼の障害	歯牙障害	上肢下肢障害	精神神経	醜状障害	胸腹部臓器	心機能	その他	合計
野球	198	179	18	21	19	28	6	5	474
サッカー	89	34	34	16	17	17	5	8	220
バスケット	9	49	33	7	17	2	5	2	124
ソフトボール	22	38	18	3	16	1	1	1	100
器械体操等	7	7	29	20	4	2	1	24	94
陸上	8	16	20	8	7	3	19	5	86
バレーボール	5	20	14	2	9	0	0	2	52
バドミントン	34	7	1	1	2	1	1	0	47
柔道	6	4	11	14	3	4	0	3	45
テニス	20	10	6	1	2	1	3	3	46
水泳	1	5	1	19	2	1	3	10	42
ラグビー	13	6	3	7	4	3	1	1	38
その他	28	58	38	24	26	7	10	5	196
合計	440	433	226	143	128	70	55	69	1564



※「その他」は「ホッケー」「剣道」「卓球」「ボクシング」

#### (4) 障害別・原因別

	ボール等 当たる	他者と 接触	転倒・ 落下	バット等 当たる	施設・設備 と接触	走る・ 跳ぶ等	投げられる・ 打たれる等	回転に 失敗	プールへ 飛び込み	自分の膝 等が接触	泳ぐ	その他	合計
眼の障害	340	48	7	21	4	1	7	3	1	3	0	5	440
歯牙障害	160	94	60	73	25	6	6	1	1	3	0	4	433
上肢下肢障害	53	19	87	1	34	19	8	2	0	0	0	3	226
精神神経	19	21	27	1	6	13	20	9	18	0	2	7	143
醜状障害	14	36	27	24	21	0	0	2	0	0	0	4	128
胸腹部臓器	28	24	6	1	2	3	3	0	0	0	1	2	70
心機能	2	0	0	0	0	46	1	0	0	0	3	3	55
その他	12	6	25	0	0	1	3	11	8	0	0	3	69
合計	628	248	239	121	92	89	48	28	28	6	6	31	1564

#### (5) 競技別・原因別

	ボール等 当たる	他者と 接触	転倒・ 落下	バット等 当たる	施設・設備 と接触	走る・ 跳ぶ等	投げられる・ 打たれる等	回転に 失敗	プールへ 飛び込み	自分の膝 等が接触	泳ぐ	その他	合計
野球	383	17	11	31	18	11	0	0	0	0	0	3	474
サッカー	100	68	33	0	10	5	0	0	0	1	0	3	220
バスケット	17	69	18	0	12	7	0	0	0	0	0	1	124
ソフトボール	46	8	2	39	1	4	0	0	0	0	0	0	100
器械体操等	0	5	48	0	3	6	0	26	0	3	0	3	94
陸上	9	3	25	1	10	31	0	0	0	2	0	5	86
バレーボール	9	7	13	0	14	8	0	0	1	0	0	0	52
バドミントン	27	0	3	13	2	1	0	0	0	0	0	1	47
柔道	0	4	5	0	1	0	35	0	0	0	0	0	45
テニス	13	1	11	10	7	3	0	0	0	0	0	1	46
水泳	0	1	5	0	1	0	0	0	27	0	6	2	42
ラグビー	1	32	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	38
その他	23	33	64	26	12	12	13	2	0	0	0	11	196
合計	628	248	239	121	92	89	48	28	28	6	6	31	1564

野球・柔道・ラグビーのように原因が特化している競技と陸上・バレー・テニスなど様々な原因から事故になる競技がある。



(6) 運動部活動 競技別・障害別(体育活動 1564 例のうち中高運動部活動の 1047 例)

※発生件数の多い順に 15 部活動を抜粋

			眼の 障害	歯牙 障害	上肢下肢 障害	精神 神経	醜状 障害	胸腹部 臓器	心機能	その他	総計	対10万人 当たりの 発生順位
1	野球	件数	196	178	17	21	17	28	6	5	468	3
	約 447 万人	対10万人	4.4	4.0	0.4	0.5	0.4	0.6	0.1	0.1	10.5	
2	サッカー	件数	56	26	26	11	11	17	3	6	156	7
	約 398 万人	対10万人	1.4	0.7	0.7	0.3	0.3	0.4	0.1	0.2	3.9	
3	バスケット	件数	5	42	19	3	14	2	2	2	89	10
	約 478 万人	対10万人	0.1	0.9	0.4	0.1	0.3	0.0	0.0	0.0	1.9	
4	バレーボール	件数	4	16	11	2	9	0	0	2	44	11
	約 325 万人	対10万人	0.1	0.5	0.3	0.1	0.3	0.0	0.0	0.1	1.4	
5	テニス	件数	18	8	6	1	2	1	3	3	42	14
	約 587 万人	対10万人	0.3	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.7	
6	ソフトボール	件数	13	8	12	2	6	0	0	0	41	5
	約 86 万人	対10万人	1.5	0.9	1.4	0.2	0.7	0.0	0.0	0.0	4.8	
7	ラグビー	件数	13	5	3	7	4	3	1	1	37	2
	約 33 万人	対10万人	4.0	1.5	0.9	2.1	1.2	0.9	0.3	0.3	11.3	
8	柔道	件数	4	4	7	10	3	2	0	2	32	6
	約 68 万人	対10万人	0.6	0.6	1.0	1.5	0.4	0.3	0.0	0.3	4.7	
9	陸上	件数	4	8	7	3	4	1	3	1	31	13
	約 312 万人	対10万人	0.1	0.3	0.2	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	1.0	
10	バドミントン	件数	21	3	1	1	2	1	0	0	29	12
	約 228 万人	対10万人	0.9	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	1.3	
11	ハンドボール	件数	3	6	3	2	1	2	1	0	18	8
	約 73 万人	対10万人	0.4	0.8	0.4	0.3	0.1	0.3	0.1	0.0	2.5	
12	水泳	件数	0	3	1	10	0	0	0	3	17	9
	約 79 万人	対10万人	0.0	0.4	0.1	1.3	0.0	0.0	0.0	0.4	2.2	
13	体操	件数	1	3	2	7	1	0	0	4	18	4
	約 20 万人	対10万人	0.5	1.5	1.0	3.5	0.5	0.0	0.0	2.0	9.0	
14	ホッケー	件数	0	14	0	0	2	0	0	0	16	1
	約 6 万人	対10万人	0.0	22.9	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	26.1	
15	剣道	件数	2	1	2	2	0	0	2	0	9	15
	約 147 万人	対10万人	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.6	

\* 対 10 万人 = H18~H27 の各障害件数 ÷ H18~H27 の各競技の部員総数 × 1

\* 部員数については、日本中学校体育連盟加盟校調査集計(加盟生徒数)・全国高等学校体育連盟加盟登録状況・日本高等学校野球連盟部員数統計より算出。